

ジャワ的、イスラーム的、中華的なるものの複合としての Primbon
Primbon: A Complex of the Javanese, the Islamic, and the Chinese

前田 彩希 (神戸大学大学院国際文化学研究所)

MAETA Saki (Graduate School of Intercultural Studies, Kobe University)

本発表では、primbon やそれを用いる人を対象に、primbon の内容と実践がジャワ的なるもの、イスラーム的なるもの、中華的なるものなどの影響を含んだ複合的、かつ多様性のあるものであることを明らかにする。

primbon はジャワのト占要覧またはカレンダーとして説明される、様々な秘儀的な知識を文字で記録したものである。行事の日程や相性、吉方位を調べる際に用いられる。primbon には数多くのバージョンが存在し、現在まで様々な本が刊行されている。

primbon は多くの研究の中で言及されているが、直接的に扱ったものは少ない。宮崎 [1981, 1983] は、多くのバージョンの primbon を対象に、その中心となる暦・計算を用いたト占について詳細に説明し、さらに primbon の浸透と衰退について分析した。ここでは、ヒンドゥーの神々やイスラームの諸聖人などの口承の知識や外来の要素が primbon に吸収されるようになったことで多様性が生まれたことが指摘されているが、その内容の具体的検討は行われていない[宮崎 1983:137]。

従来の primbon の研究では、バージョン間で違いが出る内容や、primbon と共に用いられる外来の要素は研究の対象外となってきた。しかし、そうした primbon の副次的な内容や実践には、その著者・使用者が触れる価値観の影響が現れやすい。例えば、ジャワの人々にとってよりジャワ的・本源的とされるものがある一方、イスラーム暦を取り入れるなどよりイスラームの影響を反映しているもの、風水や十二支と共に記述あるいは実践されるものがある。また、イスラームの教義から拒絶されたり、科学的合理性に欠けるため重要視されなくなったりすることもある。

このように primbon は様々な要素の複合であり、多様性に富む。その点に注目することで、現在のジャワにおいてどのような価値観が人々の生活に影響を与えているのか、ジャワ文化なるものがどのように創造され・変化していくのかを考える手がかりとなる。

宮崎恒二

1981 「ジャワのト占と分類体系：Primbon をめぐって」『民族学研究』 46.2: 208-225.

1983 「ジャワにおける占いと社会変化：文化の連続と断絶」『民族学研究』 48.2: 129-145.